第112回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２６年１２月９日提出）

１．題　目：　長崎大学メンタルヘルス講演会

２．日　時：　平成２６年１１月２０日（木）１６：００～１７：３０

３．場　所：　長崎大学文教キャンパス　総合教育研究棟２階多目的ホール

４．主　催：　長崎大学学生相談支援等協議会

５．対　象：　学生支援を行う教職員、及び学外教育関係者等

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について

［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　○　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義

教員が、教育活動を行うには、学生の精神的な状況を把握することが必要です。本講演会に出席することにより、教員が学生のメンタル面を知ることはもちろん、教員個人や組織としてメンタル面で問題を抱えた学生への対策を行うことに繋がります。各教員の教育活動において、学生のメンタルヘルスに関して日頃から意識し、配慮していただくことが講演の主旨と意義です。また職員等が講演会に参加することで、メンタルヘルスに関する教職員全体の認識の向上にも繋がります。

８．プログラム構成［題目・担当講師］

16:00～16:05　開会挨拶　堀内伊吹　副学長（学生相談支援等協議会議長）
16:05～16:10　講師紹介　田山　淳　障がい学生支援室准教授（座長）
16:10～17:20　講　演　「大学生の自殺とその予防」
—性格起因性の希死念慮を中心に—
講　師　秋田大学保健管理センター所長　苗村育郎　教授
17:20～17:30　質疑応答
17:30～17:35　閉会挨拶　調　漸　保健・医療推進センター長

９．参加者：　５７名

（内訳）

所　　属	人　　数
教育学部	4
医歯薬学総合研究科	3
工学研究科（工学部）	１０
水産・環境科学総合研究科	1
病院	1
保健・医療推進センター	１４
障がい学生支援室	3
学生支援部	5
学生	3
その他（学外者等）	１３
計	５７

１０．実施したＦＤの成果等

（１）　参加者からの評価

平成26年度メンタルヘルス講演会　アンケート集計

1. 対象および回収率

	長大教職員		外部		計	
参加者数	45		12		57	
回収数　　回収率	33	73%	9	75%	42	74%
教育職員	17					
事務職員	3					
技術職員	9					
学生その他	4					

2. 昨年のメンタルヘルス講演会に参加されましたか

	男	%	女	%	計	%
参加した	12	55%	8	40%	20	48%
しなかった	10	45%	12	60%	22	52%
未記入	0	0%	0	0%	0	0%
計	22	100%	20	100%	42	100%

3. 参加動機について(複数回答可)

	男	%	女	%	計	%
自分自身や家族のため	6	27%	3	15%	9	21%
仕事上必要なので	15	68%	15	75%	30	71%
メンタルヘルスに関心があるから	10	45%	13	65%	23	55%
社会的関心が高まっているから	1	5%	1	5%	2	5%
その他	2	9%	0	0%	2	5%
計	34		32		66	
実数	22		20		42	

4. 講演会をどのようにして知りましたか(複数回答可)

	男	%	女	%	計	%
ポスター	5	23%	6	30%	11	26%
Eメール	14	64%	3	15%	17	40%
友人から誘われて	0	0%	2	10%	2	5%
長崎大学ホームページ	2	9%	3	15%	5	12%
担当者からのすすめ	2	9%	0	0%	2	5%
上司からのすすめ	0	0%	1	5%	1	2%
部局通知	7	32%	6	30%	13	31%
小・中・高校からの通知	0	0%	0	0%	0	0%
その他	1	5%	3	15%	4	10%
計	31		24		55	
実数	22		20		42	

5. 講演の内容は期待にあっていましたか

	男	%	女	%	計	%
期待した内容でとても良かった	11	50%	12	60%	23	55%
まあまあ良かった	8	36%	8	40%	16	38%
期待にそわなかった	0	0%	0	0%	0	0%
その他	0	0%	0	0%	0	0%
未記入	3	14%	0	0%	3	7%
計	22	100%	20	100%	42	100%

6. 今後メンタルヘルスに関する講演でどのような内容を希望しますか？

・メンタルヘルスのマネージメントの仕方（希死念慮はあるが、カウンセリングも受けないという場合）
・育ちとメンタルヘルス
・精神と食事（栄養）との関連
・独居老人の心の健康についての講演を希望します。
・自殺願望の人に対する対応の仕方等
・また高村先生のお話が聞きたいです。
・平成28年度からの障がい者差別解消法に関する支援。
・うつや躁うつの学生への対応の仕方についてなど。
・教職員・学生に対するストレスマネジメント。リラクゼーション
・アマとして教員がどう行動すべきか具体的に知りたい。
・実例をたくさん聞きたい。
・半年に1回くらい、職員対象のものと非公開（難しい）のものを開いてほしい。
・問題がある学生が研究室にいる場合、どのように対応するのか具体的な内容を教えてほしい。
・活き活きと生きるためにはどうすればよいか？について
・人間とは何かについて

7．感想・意見等を自由にお書きください	
	・現在61才の私は青年期学生運動に関わり、仲間にささえられ楽しい日々をおくった。今は30才代病気をし政治運動よりも「精神世界」の本を参考にし心の支えとしている。社会に目を向け、精神世界とのバランスをとっている。今の若者は、スピリチャル、宗教にのめりこむ傾向だったり、正直に自分のことを話せない・友人が少ない。社会の一員として世の中を明るい方向に変えていくエネルギーを持っている貴重な存在だと伝える機会が必要だと思った。参考になりました、ありがとうございました。
	・共感して寄り添ってくれる必要！と言われたことが良かった。私の回りに自殺をした人がたくさんいるので、ずっと学び続けていきます。だけどカウンセラーをするのは難しい。
	・「人は虚しいから死ぬ」に納得でした。
	・まずは心に寄り添うことが大切なのだと感じました。
	・発達障がいのある人の自殺についての話が興味深かった。もっと詳しい対応の仕方を聞きたかった。
	・大変良かったです。
	・具体的な数字があり、分かりやすかった。
	・大変勉強になりました。学生と接する中で今日の講演の内容を思い出しながら対応したいと思います。
	・自殺に関する詳細な情報がよく分かった。自分自身のカウンセリング経験に照らし合わせるとよく当てはまる部分があった。
	・自殺する人がどんな人か、まるでちがった見方ができた。
	・とてもためになりました。
	・過去に極めて身近に2つの例があった。ひとつは成績データを保護者経由で受け取った留年生が、森に入ってひもで自殺。もうひとつは、朝一番に学生の父親が教授室に飛び込んできて「息子が今から尊敬する先生に自殺企画の決心を話しに来るから、必ず止めてください」と。本当に学生が後から来て今から自殺するという。順を説き、理を尽くすこと約3時間面談。結局本人は自殺を翻し突然勉強に集中し、他大学の大学院へ進学し、とてもいい研究をした。他の研究室の学生だったのに突然死ぬ前に私と話したかったと言ってきたので驚いた。この2件があったため、教員のあるべき対応について学んでおく必要性を感じている。一人を追い込んでしまい結果として、一人を救った（たぶん）。これからも突然に起こっても対応を誤らないようにしたい。
	色々な背景や事例解説は勉強になった。しかし、では現場の教員はどうすべきなのかという視点が不足していた。FDとて最も重要なポイントではないか。FDで講師を呼ぶときは、必ずこのポイントを重点として含めるように演者に強く依頼して下さい。
	・いろいろな事例を聞くことができて大変よかった。話を聞いて改めて対応の難しさを感じた。
	・希死念慮に対処しようとしても、希死念慮はなくならないものと思われる。単に延命治療そしているだけではないか。希死念慮がなくなるにはどうなればよいかが分からない。
	・当事者（みたいな人）がもしいたら、きつかったかもしれません（表現の面）
	・具体的でよくわかりました。とてもうなずけました。
	一般公問のあり方を検討頂けるとより良いと思います。もっと専門的に話を聞いていきたかったし、せっかくの機会を生かしたいように思いました。
	・とても勉強になりました。ありがとうございました。

（２） 総　括

本講演会は、本学の教職員がメンタル面で問題を抱えた学生への対応を行う上で、組織や個人としてどのような意識をもってどのように対応していくべきか、ということを考える機会として開催した。

参加者からの評価については、回答者（７４％）のうち、「期待した内容でとてもよかった」（５５％）と「まあまあよかった」（３８％）を合わせると、回答者の９３％が「よかった」という結果であった。

一方で、「色々な背景や事例解説は勉強になった。しかし、現場の教員はどうすべきなのかという視点が不足していた。」という意見もあり、この点では、講師への事前説明が不足していたのではないかということが反省点である。ただし、メンタル面で問題を抱えた学生への対応は、「その学生の心に寄り添うことが一番大切である」

とのことから、現場の教員の対応にこれが正解という答えが出せない難しさの表れとも解釈できる。　（文責:堀内　伊吹）

１１．実施代表者の連絡先

部　局：障がい学生支援室
（保健医療・推進センターカウンセリング部門長）
職　名：准教授　　氏　名：　田山　　淳
e-mail：jtayama@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：　3174

１２．申請者の連絡先

部　局：学生支援部学生支援課
職　名：班長　　氏　名：　橋口　洋二
e-mail：yoji@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：　2102